

(1) ダダダダダーンと、フクメンたちはキカン銃をうちましたが、ロボット太郎は「へいきだい、ロンロンロン。いくぞー」

(2) 「えーい、ロロン」「わッ、ウッ、キュー」ドデーんとたちまちふたりのフクメンはノサれてしまいます。

(3) 「ブラックバードのやつはドコへいったかなー。ロンロン、ちよいとタテモノの中へはいってみよう」

(4) 「なるほど、ここがキカイ室か。いろいろなものがあるな。それにしてもブラックバードはどこにいる。やい出てこい。ロンロンロン」

(5) トナリのヘヤでは「来たなロボットめ。あいつは鉄でできているから、このスイッチを入れて強いデンキジャクですいつけてやろう」バードはデンキジャクのスイッチをいれました。

(6) ヒュー「わーッ、体が何かにすいよせられるよー」ヒュー

(7) パチーン「わッ、ボクのセナカがくつついてはなれない。これはたいへんだ。うーんロロンロン。どうやつてもはなれないよー」

(8) ブラックバードは高い塔の上からおりてきて「やい、チビロボットめ。お前はさびついてこわれてしまうまでこのデンキジャクにすいついている。ウハハハハ」ブラックバードはロボット太郎をあざ笑うと

(9) これでガンマアの手下のロボットは片づいた。あと、もうひとつジャマなのは空とぶ玉にのってくる小人ハカセだ。私はこれから原子人間になって、日本の山の中へ行って小人ハカセをやっつけてくる」

(10) その夜もふけたころ、ひとすじの光にのってブラックバードは日本の山の中の小人ハカセの家へ来ました。家の中では

原始人間⑮

(11) 小人ハカセはおそくまでしらべものをしています。「ふーむ、この本でみるとこういつているな。ふーん」そしてオクのヘヤでは、ミドリがやすらかにねいきを立てていました。

(12) 「ふふふ、この家は小人のじいさんと女の子か…ふふふ。さて、どっちから先に片づけようか」ヘヤの中にスツとあらわれた原子人間。果して…